

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 12年 12月17 日

【評価実施概要】

事業所番号	4070502739		
法人名	医療法人社団 天翠会		
事業所名	グループホーム 高野		
所在地 (電話番号)	北九州市小倉南区高野5丁目-11番-1号 (電話) 093-451-3611		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	北九州市小倉北区真鶴2-5-27		
訪問調査日	平成19年11月30日	評価確定日	平成19年12月26日

【情報提供票より】(平成19年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年12月1日(西棟)	平成18年3月1日(東棟)
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	14	常勤 11 人 非常勤 3 人 常勤換算 5.65

(2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	(有) (100,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,333 円	

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	17 名	男性 6 名	女性 11 名
要介護1	7 名	要介護2	4 名
要介護3	6 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.3 歳	最低 70 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	小倉蒲生病院 八木医院 田中歯科医院 長行中島医院 徳原クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

振興住宅地を通りビニールハウスや稲刈りの終わった畑が点在する中に、近代的な2階建て造りのグループホーム高野がある。1階のデイサービスを通り、エレベーターで2階に上がると目の前の玄関は広々とした左右対称の2ユニットで、回廊の中庭は利用者自慢の花壇があり、季節の花が植えてある。建物内部の色調、照明、採光、音等に配慮があり、温かい雰囲気である。管理者、職員は多様な資格を持ち、散歩、買い物、レクリエーション参加や生活リハビリなどで日々のケアに活かしている。利用者と職員は共に支えたり支えられたりの関係で家族の一員として暮らし、家族からの信頼も厚い。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善点の中から「権利・義務の明示」「デイサービスからの音量」「個別具体的な介護計画の作成」「個人の食器の持ち込み」「成年後見制度の活用」「職員のストレス解消策」「家族の意見の反映」「事故報告書の作成と活用」の8項目が改善され、前向きに取り組みがされていた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員からの聞き取りを行い、管理者とサービス作成担当者と一緒に作成している。自己評価の結果は職員にも報告し、実践に繋げている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議には、利用者、家族、地域の方、地域包括支援センター職員の参加で2ヶ月に1回開催している。ホームの現状報告や行事予定、行事の報告、季刊誌の配布を行っている。出席者からは活発な意見をいただき、サービスの向上に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営推進会議や家族の来訪時に意見を聞いている。毎月、利用者の様子を記載した介護添書や金銭管理の報告を家族に行っている。家族から洗濯方法などについての要望があり、検討し実践されている。利用者、家族の不安が軽減するためにも、職員の法人内異動を最小限にする工夫が望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の方に、体操教室の講師に来ていただいている。地域行事への参加やホームの避難訓練に参加して頂くなど、地域との連携が望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム内に掲示されている理念を職員全員が理解し、地域との連携を深め安心して楽しく過ごさせるよう心がけている。		ホームの理念が「安心して楽しく利用できる介護施設を目指します」と謳われているが、グループホームとは小規模で家庭的な雰囲気の中で暮らす場であるため、見直しが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の申し送り時に、職員全員で唱和し実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現在、運営推進会議のメンバーに協力をしてもらい、ボランティアに来て頂き、地域との交流に努めている。		町内会や地区社会協議会からの行事の誘いも来ているので、今後は地域の行事に参加されることが望まれる。
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者が職員に評価の意義を説明し、前回の外部評価を活かして実践に繋げるように努力している。また、今回の評価については職員からの聞き取りを行い、管理者と計画作成担当者で作成している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地域包括支援センター職員、地域協力者、利用者、家族などが参加し、活動報告、活動予定や季刊誌(ホーム便り)を配布して話し合いを行い、活発な意見をだしてもらいサービスの質の向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターへ季刊誌等を届け、グループホームの現状を報告しサービスの向上に繋がるようなアドバイスを頂いている。また、市にもホームのことで相談に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護や成年後見制度の利用者が入居されているため、職員も学習し理解し、利用者や家族に説明し、活用できるよう支援している。玄関にパンフレットを設置している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の状況を介護添書として家族に手渡している。金銭管理も支出に対して家族双方に記録を渡している。家族が遠方の場合には郵送し、来所時に家族からサインを頂いている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情窓口があることを家族に説明している。一人ひとりの利用者担当職員を決め、家族とのきめ細かなコミュニケーションを図っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職、異動時は丁寧に事情を説明し、影響が出ないように配慮している。2ユニット合同での行事や日々の交流を通じて、職員は東西利用者や馴染みの関係ができています。		法人内の異動が多いようだが、利用者へのサービスの質が確保できるよう工夫が望まれる。
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の募集・採用にあたっては、性別や年齢等の理由で採用対象から排除していない。現職員も幅広い年齢層で、男女のバランスもよい。また、職員個々の特性や特技を活かした業務内容に取り組んでいる。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	常に利用者に対する尊厳を重視しており、気になるような言動がある職員には個別に注意を行い、全職員に人権の尊重について周知徹底している。		
5. 人材の育成と支援					
13	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為資格取得を目指している職員に勤務時間の配慮を行う等、バックアップを図っている。ホーム内のみでなく、ホーム外での研修にも積極的な参加を促し実行している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワーク作りの必要を感じながらも限られた事業所との交流となっている。外出レクリエーションや観劇など、他グループホームの職員に同行してもらっている。		地域の事業所などと学習会や交流を持ち、ネットワーク作りを通してサービスの質の向上に取り組んでほしい。
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来てもらったり、短時間ではあるが一緒に過ごしてもらいながら安心して暮らせるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活層を把握し、否定することなく共感し、尊重しながら利用者の得意分野を活かす場面を工夫している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を把握し、意向に添えるよう出来る限り実施している。意思疎通が困難な方には、家族との連絡を密にとり検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居時、利用者がどのような生活を望んでいるか本人や家族から意向を伺い、介護計画を作成している。		
19	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、状態に変化があれば、その都度サービス担当者会議を開催し、計画の見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスが併設されていて、機能訓練やレクリエーション等で利用している。利用者からの要望に応じて、訪問歯科を利用している。来年度は耳鼻科の訪問を予定している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切に、かかりつけ医の受診を最優先している。病状の変化がある時は家族と連携を取りながら、すぐに受診が出来るよう支援している。		
22	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは実施していないが、重度化した場合の話し合いを今年3月の家族交流会で説明を行った。		利用者や家族が安心してサービスを利用できるように、日常の健康管理や急変時の対応についての話し合いが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底し、広報誌などの掲載に関しては、必ず家族の同意を得るようにしている。		
24	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者主体に考え、計画し、行動するようにしている。朝ゆっくり休みたい方には、朝食を遅めに摂ってもらう等希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に毎日買い物に行き、朝食のメニューを決めている。盛り付け、配膳、後片付け等は利用者と共に、職員も利用者と同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。		
26	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	東西2ユニットあるので、曜日や回数に関しては利用者の希望にそって入浴している。また、大きなお風呂でゆっくり入りたいと言われる方には、デイサービスでの入浴を楽しんでもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	針仕事、庭仕事、床漬け、ちぎり絵など利用者の得意分野を発揮していただいている。外出、外食、レクリエーションなどを個別に実施し、生き生きと生活できるように支援している。		
28	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺は田園風景が広がり、四季の移り変わりを日常の散歩を通じて感じることができる。本人の希望に応じて買い物、外出、外食の支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出の様子がみられる利用者には、職員が見守りを支援することで鍵をかけないケアを実施している。		
30	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施している。今年5月には、夜間想定避難訓練も行っている。		非常災害時における地域の協力は重要である。地域の方の参加、協力体制についての取り組みと共に食料、水、毛布等の、備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量をチェック表に記入し、状態を把握できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は広々としている。回廊には備え付けの腰掛があり、散歩の途中に休憩できるようになっている。中庭には利用者が季節の花々を植えて楽しんでいる。		
33	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のスペースは広くとられており、洗面所も設置されている。本人、家族と相談し馴染みの物を持ち込み、居心地よく暮らせる工夫をしている。		